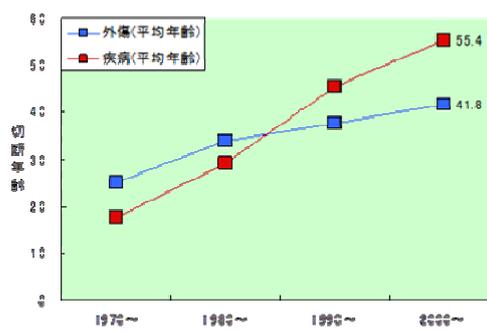
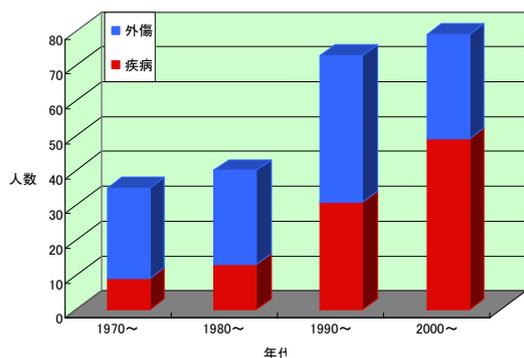


切断者と義肢に関わる調査研究

義肢装具技術研究部ではセンター開設以来1300名を超える障害のある方々に義肢装具を製作してきました。義肢装具を製作する際には、義肢装具の構造や部品の種類だけでなく障害のある方の身体状況や障害に至った原因といった情報が必要です。しかし、我が国ではどのような障害のある方にどのような義肢装具が製作されているか全国的な調査はありません。そこで、義肢装具を製作する際に記録された情報を集積し分析すれば、障害のある方と適用された義肢装具についてその傾向を把握することができます。方法としては義肢装具を製作する際に記録された障害の原因や製作された義肢装具の種類等の情報を集積したデータベースを作成しました。そしてその中から特に切断者と義肢（義手と義足）に関する情報をアウトプットできるようになりました。

● 下肢切断者の切断原因の変化と高齢化

下肢切断者の切断原因はかつて交通事故等の外傷による切断が主な原因でしたが、徐々に疾病による切断が増え、今世紀になり両者の割合は逆転しました。さらに疾病の内訳を見ると、糖尿病や動脈硬化症等の末梢血管障害による切断が近年急増していることがわかりました。このような末梢血管障害により切断に至った方は単に義足を製作して歩行訓練をすれば良いわけではなく、全身状態の改善を含めたりハビリテーションが大事になってきます。また、切断者の切断時の年齢を調査すると、切断者の平均年齢は年々上昇し、切断者においても高齢化が大きな問題となっています。このことは切断原因の変化とともに下肢切断者のリハビリテーションを更に難しくしている要因の一つであることが明らかとなりました。



切断者の切断原因（左）と平均年齢(右)の推移

このようなデータは義肢装具の研究だけでなく臨床上適切な義肢装具を製作、提供する上で貴重な資料となっています。

研究代表者：義肢装具技術研究部
hosougu@rehab. go. jp